

かねがね福沢先生の迷子には困らされてきたんですが、最近分かりました。あの先生、変身しますね。それで人の財布の中で細菌の研究とかしている。やめていただきたいですほんと。その英世先生というのがまた、若い頃は大変な放蕩者で、留学準備金を遊び果たしたとか、そういう話に事欠かないようです。後世の我々としてはもうちょっと先々を考えてお金を使えなかったのか、せつかくの偉人伝が台無しだよ子どもにどう説明すればいいんだよとか思うわけですが、ご本人としてはなかなかそうもいかなかったのでしょうかね。

それから100年近く経った近年、どうも人間が世界レベルでますます我慢できなくなっているって話があります。なにして世界中で貯蓄率が減っている。稼いだお金を貯金せずに使ってしまう。我慢がきかない。なぜそんなことになっているのか経済学者をはじめ侃々諤々議論しているのですが、そこにさっそうと現れたるデヴォー (DeVoe, 2013) さんたち三人組。何を思ったのか、悪いのはマクドだといいました。

「最近の人間ががまんできなくなったのはファストフードのせい」なんて、ちょっと有識者ばくて懂れますよね。でも心理学者としては思うわけです。証拠もってこーい。データはあるんかーって。はいはいありますとも。お三方、OECD加盟30カ国におけるマクド店舗数と貯蓄率データって鉄板に固い公開データを持てきます。

マクドの多い国は貯蓄率が低い。過去30年のマクド店舗数(対人口比)と貯蓄率データから言えるんですって。もちろん人口構成(老人が多いと貯蓄率は下がる)やクレジットカード普及率(あると使っちゃう)や経済格差(見栄張るために使っちゃう)とかの影響は統計的に統制済み。それも「フィックスド・エフェクト・リグレッション」で分析したとか言われちゃうと信憑性が5割くらい増しますよね。なん

かかっこのいいじゃないですか。名前が。

でもそれって、もともと貯金しない我慢ができない人が多いところを目ざとく見つけてマックが進出してるだけなんじゃないのという皆さんの反応はごもっとも。相関からナイーブに因果を語っちゃならないってのは心理学研究法いろはのいの左のハネですから、そんじゃ実験じゃけてことになる当然。あんたら最近ファストフードで食事したときのこと思い出してみさい。じゃけ、今すぐ1000ドルもらえるんと一週間待つんだったら、いくら多いんなら一週間がまんできるんね。なんとファストフードを思い出した人のほうが、レストランでの食事を思い出した人より我慢ができない。さらにさらに、ファストフードの前を通りかかっただけの人に声をかけて質問してみても結果は同じ。ファストフードが目前にあるだけで我慢ができない。どうしましょうこれ。

いやいや。だからってマクドばかりを責めるのも酷だとは思うんですよ。著者もそこら辺は抑え気味に書いている。それに我慢ばっかりの人生が良いとも限らない。明日のためのチョコレートを家族に食べられちゃうとか、「もっといい人」を待ち続けて云十年とか、そういう人生。

はっきりしたことは一つ。我が家は早急に引越すべきってことでしょ。玄関先ででっかい黄色いエムがぐるぐるん回っているんですよ。原稿のメ切が守れないのは、みんなあのエムが悪いんです。でもあのエムのせいで引越し資金が貯まらないという、このジレンマをいかんせん。



#### Profile — 平石 界

東京大学大学院総合文化研究科博士課程退学。東京大学助手・助教、京都大学助教を経て、2012年4月より現職。博士(学術)。専門は進化心理学。